



第4回 体験設計認証(CXD)

一般社団法人 体験設計支援コンソーシアム
体験設計認証委員会

体験設計認証 (CXD) マーク



Certified Experience Design

体験設計認証（CXD）とは

「製品・システム・サービス等に関わる全ての人⁽¹⁾に、優れた体験⁽²⁾を提供する**企業の連携事業成果を認証し**⁽³⁾、広く社会に告知することを通じて、体験設計支援コンソーシアム（CXDS）会員をはじめとする多くの企業の**体験設計を支援、推進する。**」

(1)（直接、間接）ユーザーだけでなく、提供者（個人、企業/団体およびその構成員）や社会（地域、コミュニティおよびその構成員）も対象とします

(2)体験設計（Experience Design：意図的に企てられた未来の事象連携を創造する行為）を通じて得られる事前期待、実利用体験、累積的な体験（経験）のことです

(3)開発中の製品・システム・サービス等も対象とします

体験設計認証 (CXD) を取得されると

体験設計認証された事例は、パンフレット、ホームページ掲載されると共にCXDSおよび会員が出展する各種展示会/発表会にて展示/紹介されます。



第3回認証事例紹介パンフレット

第1回体験設計認証 (2019年) では、10事例を認証しました。

第2回体験設計認証 (2020年) では、5事例が認証されました。

第3回体験設計認証(2021年) では、1事例が認証、3事例が推奨されました。

体験設計認証（CXD）の申請対象

- 認証の対象は**国内向け**の製品・システム・サービス等、プロセス/仕組み等、プラットフォーム、ツール等、各カテゴリーに該当するものとします
- **発売、公開前**の製品・システム・サービス等**も対象**とします
（公開可能な範囲で申請）
- **自薦および推薦**
推薦の場合は、事前に当事者の了解をいただいでください

体験設計認証（CXD）のカテゴリー

A) 体験テーマ設計部門

製品・システム・サービスが個別または連携して、それ自体が魅力的で新しい経験価値を生む

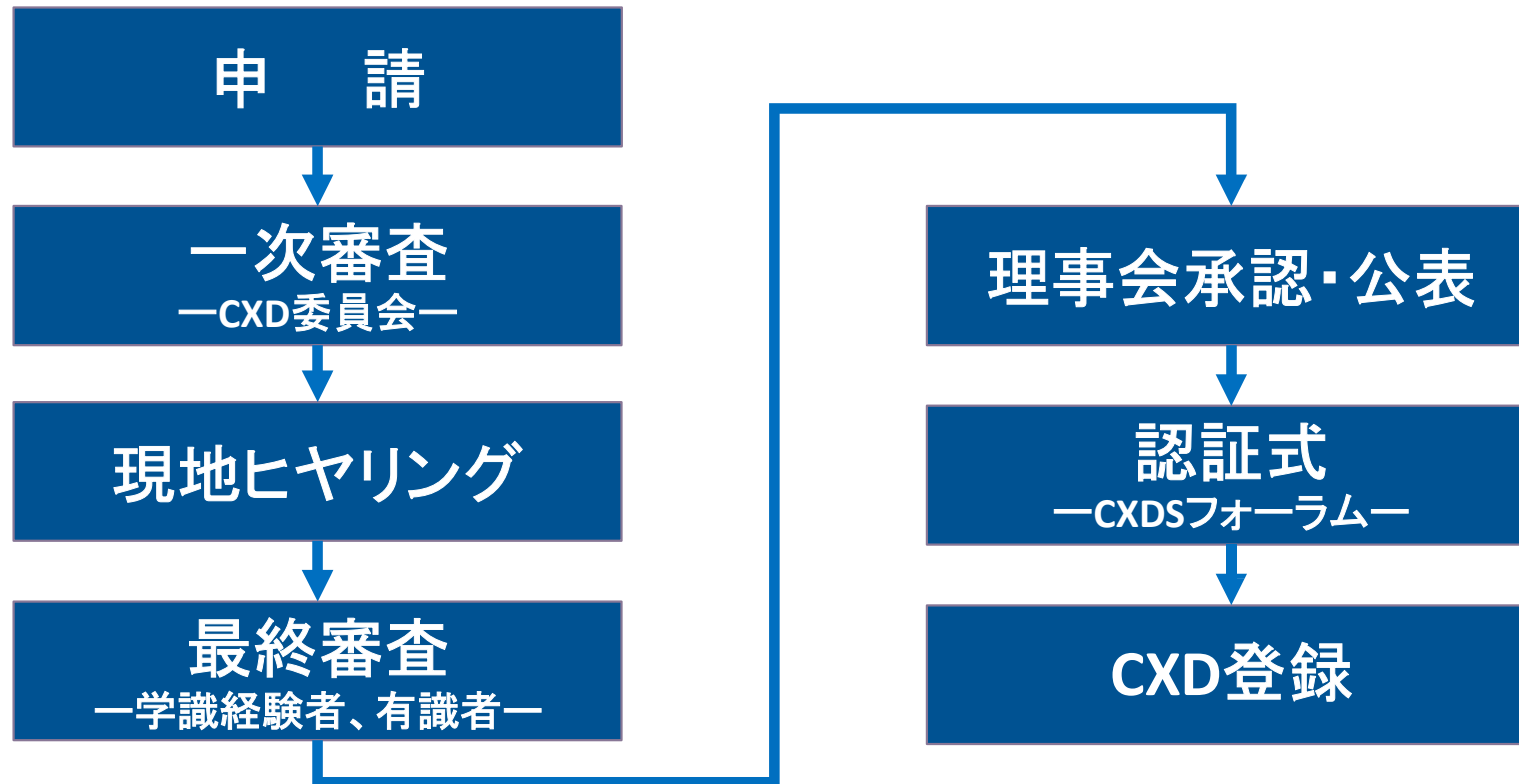
B) 体験プロセス設計部門

製品・システム・サービスが魅力的で新しい経験価値を生むための設計プロセス

C) ツール部門

魅力的で新しい経験価値を設計するために有効性のあるツールや新たな基盤となるプラットフォーム

体験設計（CXD）認証の流れ



- 登録(有料)有効期限は3年(延長可能)

体験設計認証（CXD）最終審査方法

申請内容を、**3つの部門**に分類して審査

※ 審査の過程で、より適切な部門への変更もあります

訴求ポイントを中心に、**体験設計を推進、支援するのにふさわしい取り組みや成果であるかを総合的に判断**

CXD委員会以外に、体験設計領域の**学識経験者、有識者**も参加して審査

体験設計認証（CXD） 審査基準

体験設計認証は、体験設計の考え方である

「求められる9つのデザインの思考」

「体験設計の9つの視点」

からの審査を行います。

それぞれの項目は次ページ以降を参照ください。

「求められる9つのデザインの思考」からの審査

	考え方	審査ポイント
D1	戦略を考える	これまでにない新しい価値、領域、市場を意識しているか
D2	条件を考える	人、モノ、金だけでなく、仲間、情報、ひらめきを大切にしているか
D3	人間中心で考える	市場や技術だけでなく、効果、効率、満足の観点から人を中心とした取り組みか
D4	社会で考える	利用者だけでなく、社会性のある価値も考えているか
D5	感性で考える	利用者の思いや感覚など感性面での志向も考えているか
D6	観方を考える	観察、共感、洞察で俯瞰、経験、潜在の観方を変えて取り組んでいるか
D7	文脈で考える	利用状況や進歩の経緯など、文脈で捉えているか
D8	進め方を考える	仮説推論による発想、立案、検証するアプローチがあるか
D9	みんなで考える	多様な業種と協創し、さまざまな人達との共創をしているか

「体験設計の9つの視点」からの審査

	視 点	設計対象	審査ポイント
V1	経験する対象の領域	体験ドメイン	ユーザーだけでなく、顧客/社会/従業員などの体験も考慮しているか
V2	経験する意味の探索	体験テーマ	専門家の新たな気づきとユーザーの本質的要求の両面からテーマ創りに取り組んでいるか
V3	経験を革新する規模	体験レベル	タスク、シーン、ジョブの変革の規模を意識した体験作りになっているか
V4	経験を評価する世代	体験ロードマップ	時代の流れと世代に対する体験価値を意識した設計になっているか
V5	経験を構成する要素	体験モジュール	感覚的、情緒的、認知的、行動的、関係的な体験価値の要素があるか
V6	経験を展開する背景	体験ステージ	何で、どのようにしてだけでなく、いつ、どこで、誰とを想定した新なうれしい体験を設計しているか
V7	経験を獲得する経緯	体験ジャーニー	時間軸に沿ったユーザーの思考、行動、気持ちをその接点（タッチポイント）を意識した設計になっているか
V8	実現する連携	体験バリューチェーン	体験の実現に関与する人や企業における情報/モノ/金などの流れを意識した設計になっているか
V9	経験の獲得への導入	体験イントロ	未知の製品・システム・サービスに対して、気づき、探索、試用、獲得までの導入シナリオが想定されているか

体験設計認証（CXD）最終審査方法

- 申請内容を、**3つの部門**に分類して審査

※ 審査の過程で、より適切な部門への変更もあります

- 訴求ポイントを中心に、**体験設計を推進、支援するのにふさわしい取り組みや成果であるかを総合的に判断**
- CXD委員会以外に、体験設計領域の**学識経験者、有識者**も参加して審査

第4回体験設計認証(CXD)の日程(予定)

- 2022年06月 第4回体験設計認証概要公開
- 2022年07月 詳細告知・申請受付開始
- 2022年10月 第4回申請締め切り
- 2022年11月 審査開始
- 2023年01月 第12回CXDSフォーラムにて認証事例を表彰

(参考) 体験設計推奨制度 (2021年度開始)

社会には既に体験設計を意識せず展開して、優れた成果を獲得している**体験設計の事例が数多く提供**されています。これらの優れた事例を**推奨**することで、体験設計による開発の**意義**をより身近で活用できる設計開発手法であることを**多くの経営者、管理者、技術者、企画者、営業販売者などの理解を深める**目的で選定されています。

体験設計推奨事例は、CXD委員会が推薦し、認証と同じ審査基準で書類審査と(現地)ヒヤリングを踏まえ、最終的に理事会で決定されます。

体験設計認証にふるってご申請ください。

自薦・他薦をどうぞよろしくお願いいたします。

詳しくは、CXDSホームページをご覧ください。